



海士

特 別
F12
3656
2



ば夫をお待は所乃いれを集

シテセイシ

はねあふゆるもそは 蟹の

うら藤ふし母虫よあし龍も

カミししぬしは寝うを 足六

横州志波の備寺ちりけきとも

あし海なきあまおと里乃海人

うそく実やたうよおみ伴勢於乃

海士の夕波おうちとのやまの

月夜まら演舞乃風小秋をき家

まじ波磨乃海士人の塩木も

あま乃梅枝おちもちそけるを

忘ぬ便置もあつよは備もそハ

あしき見もあつよは備もそハ

うしちちあみあつよは備もそハ

二一 何をいふるめ菊ふよ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
三二 大いふ溪川のづく
二 二 二 二 二 二 二 二 二 二
三三 流きお世にやふるわさ
二 二 二 二 二 二 二 二 二 二
三四 心あしきつひうさ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
三五 里よ海らんく
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
早月
女おしといふ備乃蓋よ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
早月
さんふはうしおのしき
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一七 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一八 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一九 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
二〇 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
二一 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
二二 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
二三 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
二四 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
二五 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
二六 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
二七 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
二八 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
二九 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
三〇 女をいふ
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

かろめ 成めさ 積久コキ ちやく

さやう ねため せてい あーあ ね

あな 月を け 鏡ひる ころ 見え 成め

志 ぐわて きりり と 成 けい ぐわ

乃 巻よとの 内 隆 なるわ ころ ぐわ

月 の 為 菊乃 巻よとの け 隆 ぐわ

昔 も せ 成 ため ー あ わ 明 珠 を

^上 けい ー ー ー 沖 ー ー ー 成 家 ー ー ー け ー 成

^上 けい ー ー ー 成 家 ー ー ー 成 家 ー ー ー 成 家

^ト ー ー ー 成 家 ー ー ー 成 家 ー ー ー 成 家

かろめ 成めさ 積久コキ ちやく

あまこ け 月 も ころ 志 海 乃 ぐわ

あまこ け 月 も ころ 志 海 乃 ぐわ

あまこ け 月 も ころ 志 海 乃 ぐわ

あまのこゝろをなむいあまのこゝろと
中てはあま人のすこたまひ
を所ふを以又是成時には玉成
とわあをいしめて見うめ
よはしあゝき珠時とあて
新珠時と尸山 早 梅うけたまひ
ふをい何と申さう シテ 忠申子

物也乃像まきまは何方よりわ
たゝ三きまきおあ一面の家よ
よはしを面を向ふようむいんと
うつそ面向不肖おあと申
早
あ願のたう城何とてい漢ね
よわも漢志うう 早 と乃大臣
漢海公の信妹ハ夜さ宗白と帝対

后よたゞとて新ふされいそ成さ
た。眞いとて無福さへ三乃寶哉
まうとて海へ兼原盤酒濱石面向
不肖お玉二流の寶い業業——
明珠をば神とて我言へとてさ
志を大臣法方をやけ——は備よ
下わ新ひい局——き満せし女と

ちようわ城こめひととわ新け子城
まうくとと乃春満乃大臣是なわ
やあうよ是あう春満の大臣よ
あうな法——は満せ人や新く
後ととく ^マ 登河井あやととこい
後所乃事ととと思ひはるよ
初ハ法方乃人あてととや登

ひすなやま 三つりく大臣乃
 子とむま神めく三ひりき
 花おのさられせさるるあは
 事いふれあ残るる母きり
 下
 あると義亡心かゝるていさ
 うさくも法毎に徳妙
 志波お備原時乃あまわらさ
 志

をうけあひとく言業成乃こ
 梅ハ時きあまの子志所のみお
 上
 上
 うれとくも幕末おく志り
 霜はも月乃ひりわ雨露乃
 あう寸やとおんハあまりうわ
 あうな流りおあまひと
 上

法縁をかりたまふ
心あきあき衣あしこあぬ
り袖をくも総て
ふたり巻たものほ事やあ
衆人乃賜き海に胎内よ
たまふも一世な
日月に涼よ秘
たよ

しなわ
子孫と
なふのや我
む
いりやあ
くたす
玉成らゆきあ
と
もの
は
を
は
あ

して海なるて法目よりけり
 りやくたつて事なり
 ころあてんりう神もてい
 あまのひそふるん 第百 へ
 りぬ事たるうと海なるて
 法目よりけり 第百 へ
 海なるて法目よりけり

海なる人なりと
 とりえたるハ此法子を世継乃
 法位よあたまんと
 子細あつと
 細ハ我子故よすて其
 携りつと手執乃繩を腰よ
 法目よりけり

は麗なりうこくは海一其時人し

力越活引あを斬くと物束一

上書

ひと流の利敵をぬきも流て

上月

皮満衣子龍入川空ハひと流て

下

雲能浪燈乃舟を志乃き流て

海漫くと糸入て直下とて物共

うこもあくさもさうぬ海衣の

うも神愛ハ心ゆく志〜ハ方えん

事ノ冬不定あわかくて就事よ

り〜里て書中越〜物ハ天さる

三十丈お玉塔よは玉をこめ置

香籠をうかへや漢神冬ハ就並

居らわそお思魚鱗其口乃

う〜一〜や我あさ〜ん〜書中其

ちねう〜成りき、切玉成押こめ
しるきを授てうう〜うわく
新事乃な〜ひよ宛人をいぬ
あ〜い〜う〜ち〜は〜思我あ
揚東乃おまをう〜のき〜人
よめ〜ひ〜あき〜わ〜わ〜玉
〜〜海上人、海上ふう〜ひ

出〜わ〜か〜て〜う〜ひ〜あ〜し
大〜思我乃わ〜と〜あ〜し
吾我もは〜あ〜あ〜あ〜あ
た〜も〜は〜あ〜あ〜あ〜あ
む〜あ〜く〜な〜わ〜く〜る〜も〜大臣
類〜き〜終〜よ〜可〜色〜ね〜あ〜し〜あ〜わ〜ち
や〜う〜我〜乳〜乃〜あ〜い〜思我は湯をど

ありまもぬれあふわらふあも
ありまなまらふ光りかくや
たる玉子乃出に梅しうはちも
屋くうくめしもるくはうくは
名りりもきて屋端乃大臣をば
戸とらいたなまを、はくむ八条
下
く映くうはち能はく満世人能

通良よは菊乃能を侍読し
不喜哉あさくともふらへや
うんらんあさくものよ能あう
ちきまき愛人のあまをくや
備時、親子能葵里あさく志能
浪乃能よ志所まわつた波の
下ふのふくわ
早詞
あつふ中上人

あまのわたりしうきなまの法事

よしてん様よ法を託をひらき

は神んぎく神うひるあそ

のうた

ねい七母乃手託あひひるま

三神ハ魂江上りき法を一十

三年後を由河に埋せし日月乃

とんをふん託留きたわわ

ふん人なり天孝たた

わの軍備をたすきよくよう神

よわハ十三年きそハ

所あしきふりりんはさ

らろくあるを向ま花乃暁の

あゆまき乃善をあし新ふく

上

宇美無人群 ああありう

法華のやあは法體ののくけり
子道乃違多ハ天に記夢を氣を
ハ業能就女ハ南方無垢世界に
志やうをうく心なげく將談
志たうくハ通一 深き飛福お
遍照於十才 微ぬ淨法乃々お
三十二 以八十程ぬ 月莊嚴

法乃 天人所裁信就神威恭愛
法乃 難の法體や には體能徳
月乃 夫就ハ那人興那人
皆を見彼就女成佛初くう護妙
志渡さると号志 毎年ハ講お昔の
勅り佛法聖賢の志地となるも
は孝養とうけたまはる

